

公共事業新規事業評価調書

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 原口 和夫 (筧 一義)	内線	4 3 6 2 (4 3 7 6)
------	-------------------	---------------------	--------------------------	----	------------------------

事業種目	道 路	事業名 (一)広畑青山線 住宅宅地関連公共 施設整備促進事業	事業区間 姫路市広畑区 才～西蒲田 2.3 k m	総事業費	約105億円 (うち用地補償 費60億円)
------	-----	---	------------------------------------	------	-----------------------------

所在地	着工予定年度	完成予定年度
姫路市広畑区才～西蒲田	H12年度	H19年度

事業目的	事業内容等
<p>環状道路網の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 姫路市の外環状道路として、都市の骨格形成を図る。 <p>渋滞対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 姫路市臨海部～国道2号バイパス姫路西I.C間の慢性的な渋滞解消を図るため、バイパス整備を行う。 <p>利便性の高い住宅供給の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大津勝原団地から姫路西I.Cへのアクセス性の向上を図る。 	<p>道路改築(バイパス)</p> <p>L = 2,300 m</p> <p>W = 13.0 (28.0) m ; 4車線</p> <p>現道 W = 6.0 (16.0) m ; 2車線</p> <p>交通量(台日) : 計画 40,000 現況 23,000</p>

評価視点	
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火災の延焼遮断...広幅員(28m)のため火災の延焼遮断に効果有り。 ・ 救急医療体制の支援...救急告示医療施設(新日鐵広畑病院)へのアクセス道路。 ・ 都市の骨格形成...播磨地方拠点都市地域の母都市である姫路市の外環状道路の形成。 ・ 交通拠点へのアクセス確保...姫路市西部の住宅団地及び播磨臨海部から姫路B.P.姫路西I.Cへのアクセス道路の整備。 ・ 自動車騒音の軽減...騒音値が環境基準を超えているため、バイパス整備を行うことにより、現道の交通量を軽減させ、現道周辺の住環境の向上を図るとともに、バイパス歩道部に植栽帯を設置する。 ・ 交通渋滞の解消...現況混雑度(1.7)の軽減に資する道路。
安全・安心 "まもる"	
地域の活性化 "創る"	
快適性・ゆとり "育てる"	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「広畑区・大津区地域づくり推進協議会」から早期整備の要望有り。
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用便益比 B / C = 8.5 ・ 現道拡幅では100戸を上回る物件移転が必要で莫大な事業費となることから、事業目的を達成するためには当該道路をバイパス整備する以外に代替となる整備手法は無い。 ・ 姫路市都市計画道路整備プログラムにより、今後重点的整備が必要な路線として公表済み(H12.1) ・ 用地取得の面で、姫路市道路事業予定地建築規制及び先買い条例に基づき姫路市が9,500㎡(全用地買収面積の18%)を先行買収している。 ・ 平成12年度末に組合が設立される西蒲田下野土地区画整理事業(A=10ha)の中で、代替地確保が可能である。
有効性	
代替性	
効率性 (事業執行環境)	
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路緑化等により、沿道環境の保全に努めるとともに、人家連担部において道路騒音が環境基準を超える箇所については、低騒音舗装等により騒音の低減を図る。
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中核都市であり、地方拠点都市地域の母都市である姫路市の外環状道路の形成、現道をはじめ周辺道路網の交通混雑緩和等、社会経済活動に与える効果は大きく、早期に整備着手する必要がある。

評価の結果		左の理由	
-------	--	------	--